歩く人は若返る!

三軒茶屋から松陰神社、豪徳寺
世田谷線周辺散策

豪徳寺

彦根藩第二代藩主・井伊直孝が鷹狩りの帰りに豪徳寺の前を通りかかりました。その時、和尚の飼い猫が手招きするような仕草をしたため、寺に寄り休憩を。すると突然の雷雨になりました。
雨に濡れずにすんだことを喜んだ直孝は、後日荒れていた豪徳寺を建て直すために多額の寄進をし、寺は盛り返したという。
これは、豪徳寺が招き猫発祥の地とする説の一つです。

松陰神社

吉田松陰先生像

吉田松陰は安政６年（1859）10月27日、安政の大獄に連座し江戸伝馬町の獄中にて30歳の若さで刑死。４年後の文久３年（1863）、門下生であった高杉晋作、伊藤博文たちにより、当時の長州毛利藩藩主の別邸のあった、この若林の地に改葬されました。
明治15年11月21日松陰門下の人々が、墓畔に社を築いて先生の御霊を祀るところとなり、近年は学問の神として参拝者は全国各地に及んでいます。

招き猫

豪徳寺・井伊直弼の墓所

目青不動

五色不動（五眼不動）の一つに数えられ、今では「縁結びの不動」として信仰を集めています。境内の「チシャノキ」は100年以上の古木。
4月8日の花祭りは、いまでも生花で飾るそうです。

世田谷ボロ市

ボロ市の始まりは、約400年前の天正の時代の楽市にさかのぼります。近郷の村人の需要をみたす農機具・古着・正月用品などを、毎年12月15日に売る「歳の市」として開かれてきました。
明治時代には、正月15日にも開かれ、やがて12月15・16日の両日、正月の15・16日にも開かれるようになり、現在に至っています。時代とともに、並ぶ商品も農機具などは減り、食料品や玩具、装身具、ことに植木類が多く売られています。

キャロットタワー

周辺のランドマークにもなっているキャロットタワーは、銀行や企業、「生活工房」、「世田谷パブリックシアター」などの文化施設や商業施設、行政窓口が備わる複合施設です。
最上階は入場料無料の展望スペース。テーブルやイスなどが置かれ、自由に都会の景色や夜景を望むことができます。
解放時間は23時まで。